

第 18 章 福岡新田遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

福岡新田遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面上で、標高 7 ～ 10 m 前後の平坦地に位置する。遺跡周辺は福岡江川が僅かに南に湾曲し、江川の侵食による蛇行なのか、埋没谷や湧水などの影響によるものかは不明である。江川から南に広がる窪地と周辺部には僅かな微高地状の起伏もみられる。

福岡新田は江戸時代の慶安年間（1648 ～ 52 年）に川越藩の新田開発により成立した村で、『新編武蔵風土記稿』によると、村域は江川左岸の「東西 25 町許、南北 5 町」とあり、東西約 2.7 km ・南北約 500 m である。

遺跡範囲は当初、江川の北側にも延びていたが、北側は松山遺跡に統合し、南側のみを福岡新田遺跡とした。遺跡の範囲は南北 230 m、東西 240 m であるが、広がる可能性もある。

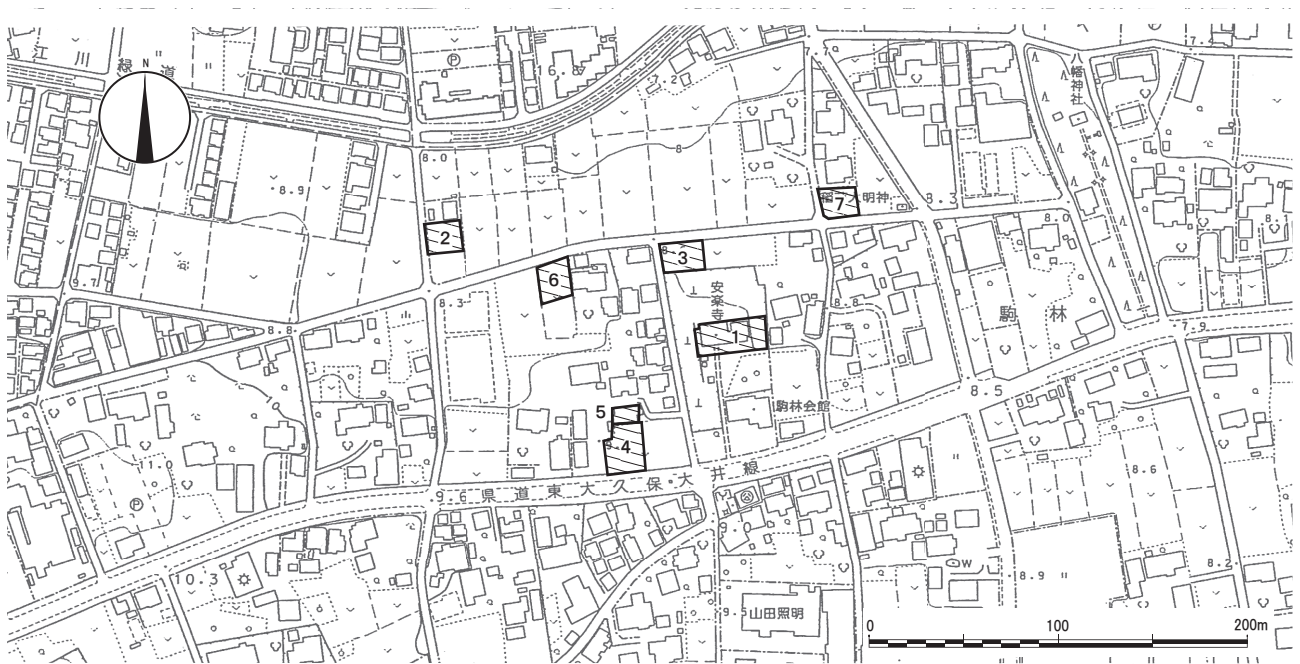
遺跡周辺は宅地開発もされるが、畑地も多く残っている。周辺の遺跡は、江川の対岸に松山遺跡、200 m 東側に鷺森遺跡、350 m 西側に駒林遺跡（2008 年駒林新田前遺跡と統合）がある。

本遺跡周辺の調査は、1982 年新田 2 丁目の試掘調査以来、2018 年 4 月現在 6 ケ所で実施している。2013 年 1 月、第 4 地点の本調査で奈良平安時代の住居跡 1 軒を検出、遺物も出土している。

II 福岡新田遺跡第 6 地点

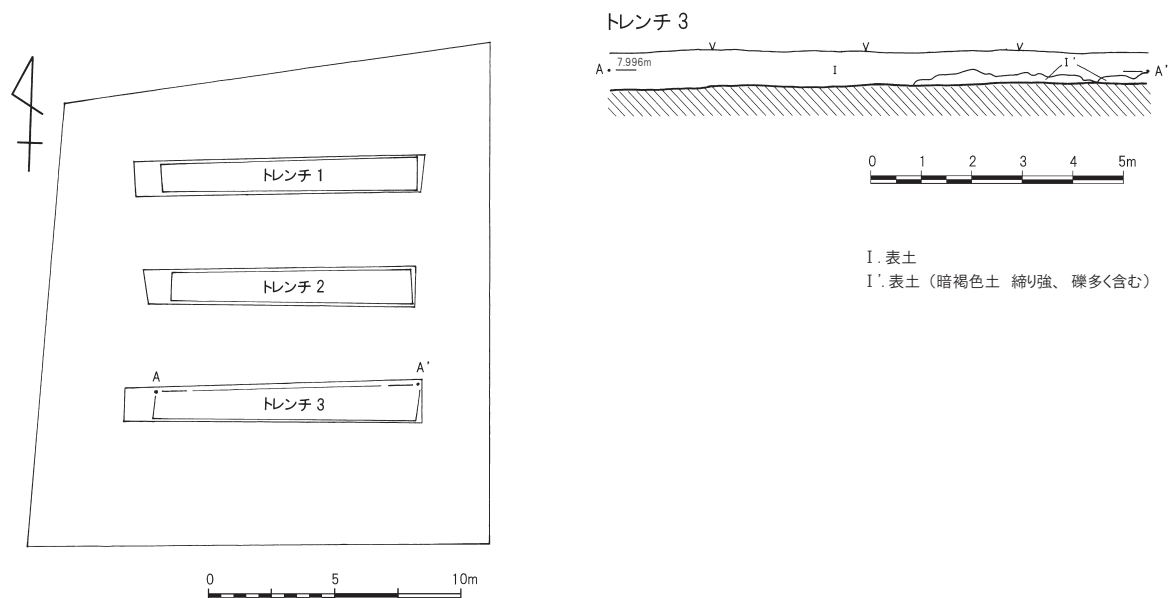
（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2017 年 4 月 6 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の中心部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2017 年 7 月 13 日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 ～ 80cm であった。



第 95 図 福岡新田遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第 96 図 福岡新田遺跡第 6 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第 55 表 福岡新田遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1982 年度 新田 2 丁目 遺跡試掘	新田 2-481 ~ 482	(1982.8.27 ~ 9.14)	1,454	民間開発	近世陶磁器、松山遺跡に変更	上埋 V
1989 年度 新田遺跡試掘	新田字本新田 400-1	(1989.6.22 ~ 27)	495	宅地造成	遺構遺物なし、松山遺跡に変更	上埋 12
1991 年度 福岡新田試掘	駒林 817-1	(1991.4.23 ~ 26)	482	個人住宅	自然堤防でなく後世盛土	上埋 14
1991 年度 駒林新田試掘	駒林新田 727-1-3	(1991.8.3)	2,186	共同住宅	遺構遺物なし、駒林遺跡に変更	上埋 14
1992 年度 福岡新田試掘	中福岡 362	(1992.7.17 ~ 22)	998	共同住宅	遺構遺物なし、松山遺跡に変更	上埋 15
1	駒林字寺脇 861-1、 866-1、862・864・ 865 の一部	(2007.10.9 ~ 24)	1,754	寺院建設	中・近世以降の土坑 6、溝 5、縄文土器、近世陶磁器	市内 4
2	駒林字寺脇 841-3	(2011.9.12 ~ 14)	231	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
3	駒林字寺脇 869-4	(2012.12.18) 2012.12.19 ~ 21	281.49	個人住宅	土坑 3、溝 4、ビット 10、土器	市内 15
4	駒林 859-1	(2013.1.7) 2013.1.8 ~ 23	568	駒林会館	平安時代住居 1、土坑 4、溝 2、近世以降のイモビツ、土師器、陶磁器	市内 15
5	駒林寺脇 852-2・7	(2013.12.18・19)	153	個人住宅	遺構なし、平瓦	市内 18
6	駒林寺脇 845-2	(2017.7.13)	331	個人住宅	遺構遺物なし	市内 24
7	駒林寺脇 883-1	(2019.3.14・26)	412	個人住宅	ビット 1、土坑 1、土器片、石器、須恵器、陶磁器	未報告



福岡新田第6地点トレンチ1